

# 2020 年度 事業報告・決算報告

特定非営利活動法人共存の森ネットワーク

## NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系ー地球ー」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 概 要

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、日本では、2020 年 4 月 7 日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の 7 都府県に緊急事態宣言が発令され、16 日には、その対象が全国に拡大されました。そのため、「第 19 回 聞き書き甲子園」の開催は急遽中止を決定。福岡県福岡市で開催する予定だった「海辺の自然再生・高校生サミット」ならびに都内中学生を対象とした「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園」も開催を中止し、岡山県真庭市で実施する「真庭なりわい塾」第 5 期基礎講座の開催も次年度に延期することになりました。

事業活動の縮小により、当団体は、国の雇用調整助成金を申請することとし、事務局スタッフは 5 月から 8 月までの間、交代で勤務しました。

対面でのイベント実施等が厳しい中、本年度は、オンライン会議ツールを最大限に活用しました。「第 18 回 聞き書き甲子園」の成果発表会（フォーラム）は 6 月に延期し、オンラインで開催。「海辺の自然再生・高校生サミット」も 11 月にオンラインで実施しました。

「真庭なりわい塾」は、コロナ禍を時代の転換点と捉え、これからの社会や暮らしのあり方を考える全 7 回のオンラインセミナーを実施しました。

大分県国東半島・宇佐地域の「聞き書き」事業は、オンラインと対面を併用して、参加高校生の事前研修を行い、名人への聞き書きの一部はオンラインで実施しました。

また、新規事業として（公財）笹川保健財団より「第 20 回ハンセン病問題に関するシンポジウム（人権フォーラム 2021）高校生による聞き書きプログラム」を受託。高校生によるハンセン病回復者の「聞き書き」と成果発表会をオンラインで実施しました。

（公財）日本財団の助成事業は、「聞き書き甲子園」の開催中止に伴い、事業計画を大幅に変更。次年度「聞き書き甲子園」の実施に向けて「聞き書き」講義動画 2 本を製作するとともに、東京書籍（株）が運営するキャリア教育サイト「Edu Town あしたね」に「ききがきオンライン～見る・聞く・書く 海・川の仕事人～」を新設し、4 本の動画を掲載しました。

また、次年度「聞き書き甲子園」が 20 周年を迎えるにあたり、記念行事の企画を検討するとともに、小冊子『働くことは、生きること』を製作しました。同冊子は、「第 21 回聞き書き甲子園協力市町村（地域）公募」の実施にあわせて、全国約 800 の市町村に配布する予定です。

本年度は、人と人との接触を避け、新型コロナウイルスの感染防止を最優先とした事業活動が求められましたが、これによりオンラインを活用した事業活動への可能性が広がるとともに、ノウハウの蓄積につながりました。一方で、対面で出会い、交流することによってこそ得られる関係性や、五感を通じた学びの大切さを改めて認識することとなりました。

会員の皆様、そして行政や企業、団体、市民の皆様の活動に対するご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、以下、それぞれの活動の詳細についてご報告を申し上げます。

## I 組織

### 1. 会員（2021年4月30日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	43人（-1）	40人（-2）	
賛助会員	26人（-2）		3社7口

※ユース会員 : 満23歳未満で正会員となる方

※（ ） : 昨年同時期からの増減

### 2. 役員（敬称略）

役名	氏名	所属等
理事長	澁澤 壽一	株式会社エスパシオ代表取締役
理事	吉野 奈保子	NPO 法人共存の森ネットワーク事務局
理事	工藤 大貴	株式会社さとゆめ（第8回 聞き書き甲子園参加）
理事	峯川 大	NPO 法人共存の森ネットワーク事務局 （第9回 聞き書き甲子園参加）
理事	本多 美優	ハイジ・インターフェイス株式会社
理事	小林 和彦	NPO 法人やんばる・地域活性サポートセンター事務局長
監事	須河 紗也子	NPO 法人利賀山川まもる事務局
監事	中山 幹生	株式会社森里川海生業研究所

## II 事業

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

#### ① 聞き書き甲子園の開催

##### <第18回聞き書き甲子園フォーラムのオンライン開催>

新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を延期した「第18回 聞き書き甲子園フォーラム」(成果報告会)は6月13日オンラインで開催しました。第1部では、林野庁長官からのメッセージと農林水産大臣賞等の受賞者の発表を行い、「聞き書き」した12地域の紹介とともに、名人を「聞き書き」した感想等を、高校生に発表してもらいました。第2部では、代表高校生3名と塩野米松氏(作家)、阿川佐和子氏(文筆家)とのトークセッションを行いました。

オンライン視聴の事前登録者数は521名。また、視聴者向けに実施したアンケート(回答数200)では、98パーセントが「聞き書き甲子園をこれからも続けてほしい」と回答しました。また、「同じ地域を訪問した高校生が複数いることが、高校生同士の深い絆や地域との継続的な関係につながると、高校生の発表を聞いて感じました」といった感想も寄せられました。



##### <協力市町村(地域)での成果発表会の実施>

第18回聞き書き甲子園の終了後に、協力市町村(地域)において報告会等を実施する場合には、その費用の一部を補助する制度を新設したところ、5地域(山形県飯豊町、新潟県柏崎市、徳島県神山町、大分県国東半島宇佐地域、宮崎県都城市)より申し込みがありました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、4地域は開催を断念。新潟県柏崎市のみ、名人と高校生によるトークイベントを、12月6日にオンラインで実施しました。



## <第20回協力市町村と名人の決定>

第19回聞き書き甲子園は、4月13日に聞き書き甲子園実行委員会の判断で、開催を中止することを決定しました。開催に協力いただく予定だった12地域（市町村等）には、第20回開催への協力を依頼し、すべての地域から同意を得ました。さらに、第19回開催では不採択となっていた4地域にも、第20回開催への協力を要請し、同年9月に追加採択となりました。

そのため第20回聞き書き甲子園は、計16地域の協力により実施する計画で準備を進めましたが、その後も新型コロナウイルスの感染拡大への懸念が続いたことから、うち4地域は協力を辞退。結果、第20回聞き書き甲子園は、以下12地域の協力より、計88名の名人の「聞き書き」を実施することとなりました。

### [第20回協力市町村（地域）]

岩手県西和賀町／山形県小国町／山形県白鷹町／栃木県鹿沼市／石川県能登町／長野県飯田市（南信濃地区）／岐阜県中津川市（加子母地区）／岐阜県東白川村／福井県大野市／大阪府阪南市／岡山県備前市／長崎県大村市

## <第20回開催に向けての準備>

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、第20回開催はオンラインで高校生の研修を行うことも想定し、講義動画『はじめての聞き書き取材』基礎編・応用編の2本を製作しました。

また、聞き書き甲子園の活動を紹介する動画を製作し、第20回開催の参加高校生の募集を開始する時期に、公式ウェブサイトに掲載する準備を進めました。

- ・初めての聞き書き取材～基礎編～：<https://www.youtube.com/watch?v=XSMRXA7pYes>
- ・初めての聞き書き取材～応用編～：<https://www.youtube.com/watch?v=6QInZNE0Cg8>
- ・聞き書き甲子園の活動紹介：<https://www.youtube.com/watch?v=8xMwcXN4Y0Q>

## <第21回協力市町村（地域）公募に向けての準備>

「第21回聞き書き甲子園 協力市町村（地域）公募」を次年度行うにあたり、公募案内のパンフレットを作成しました。あわせて、全国の過疎地域を中心に市町村の関連部署をリスト化し（約800市町村）、送付準備を行いました。



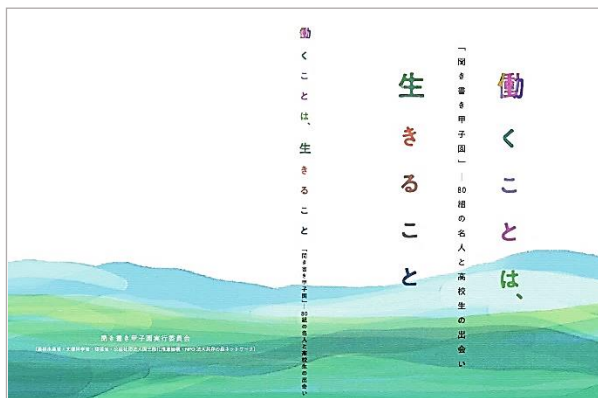
## <20周年記念行事の企画・準備>

聞き書き甲子園が次年度20周年の節目を迎えるにあたり、記念行事の企画と準備を行いました。また、以下の映画や小冊子を新たに製作しました。

- ・小冊子『働くことは、生きること』

第18回聞き書き甲子園の聞き書き作品と高校生の感想文を抜粋してまとめた小冊子を作成し

ました。同冊子は「第21回 聞き書き甲子園 協力市町村（地域）公募」にあたり、全国の市町村等に配布するとともに、聞き書き甲子園20周年の記念行事においても配布する予定です。



・映画『森聞き』短編

第7回聞き書き甲子園に参加した4人の高校生と名人を描いたドキュメンタリー映画『森聞き』（2010年制作/125分）を制作したプロダクション・エイシアに依頼し、同作品を再編集した短編ドキュメンタリー（約50分）を制作しました。同プロダクションと当団体とで貸出利用に関する契約を交わし、学校内での視聴や市民が企画する無料上映会等に限り、当団体から直接貸出を行うこととしました。

<デジタルアーカイブ>

高校生がまとめた「聞き書き作品」は、毎年「聞き書き作品集」として冊子にまとめるとともに、（一社）農山漁村文化協会「ルーラル電子図書館」内の「聞き書き電子図書館」に順次収録し、ネット上で公開しています。本年度は、昨年度（2019年度）に実施した「第18回 聞き書き甲子園」の作品収録作業を行いました。

② 「Edu Town あしたね」との協働事業

東京書籍（株）が運営する「Edu Town あしたね」は、小・中学校のキャリア教育を支援する総合サイトです。「聞き書き作品」を広く、小・中学校の教育現場で活用いただくために、同サイトに「海・川の仕事を」に関する特集ページを開設しています。

本年度は、「海の豊かさ」（海の環境）をテーマに、水族館学芸員、深海潜水調査員（ジャムスティック）、持続可能な漁業を実践する漁師、NPO・NGOの仕事（エコツアーの実施、海ゴミ調査活動）を紹介。また、SDGs（持続可能な開発目標）等をテーマとしたコラム6本を新たに掲載しました。

なお、当初の計画では、「海の仕事を」（漁師等）を小学校に派遣、本ウェブサイトを活用したモデル授業を実施し、その内容も掲載する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止。代わりに、「ききがきオンライン～見る・聞く・書く 海・川の仕事を～」という動画コンテンツを掲載したページを新設しました。鮮魚店の店主、漁師、海洋環境専門家へのインタビューと、インタビューのポイントをまとめた動画の計4本を製作。動画とワークシートをあわせて掲載し、子どもたちがインタビューの楽しさを実感しつつ、海の環境や漁業などについて学べる内容となっています。

- ・海・川の仕事を人サイト URL : <https://ashitane.edutown.jp/umikawa/>
- ・ききがきオンライン URL : <https://ashitane.edutown.jp/umikawa/online/>



## 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

### 「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」の実施

「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」は、東京都の自然公園エリア（主として秩父多摩甲斐国立公園）内の山村地域で、都内の中学生が林業等に従事する名人に「聞き書き」を行い、その体験をもとに「ものがたり」を創作し、影絵芝居で表現する活動です。

本年度第3回開催は、奥多摩町にて5名の名人（マタギ、山ワサビ栽培、川漁師、染め物職人、林業家）の協力を得て、11月22日～23日に「聞き書き」取材と「ものがたり」の創作を行い、2021年3月に影絵による発表会を開催する予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催を中止することとなりました。

なお、本年度は、株式会社ベネッセコーポレーションの協力により、活動紹介の動画を新たに制作しました。同動画は、次年度開催が決定し次第、「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」の公式サイトにアップする予定です。

### ※ [きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～ 実施体制]

同事業は、東京都環境局、都の自然公園エリアの市町村、当NPOが実行委員会を結成して主催。東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」等の支援を得て実施しています。

[主催] 第3回「きく・かく・えがく～東京のふるさと・自然公園～」実行委員会（東京都・奥多摩町・特定非営利活動法人共存の森ネットワーク）

[協賛] 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」

[協力] 株式会社ベネッセコーポレーション進研ゼミ中学講座

[助成] トヨタ環境活動助成プログラム

[後援] あきる野市、青梅市、日の出町、檜原村

## 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

### ① 「第7回 海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国でアマモ場の再生活動等に取り組む高校生の発表と交流を通して、次世代に活動の輪を広げていくことを目的に実施しています。本年度は、福岡県福岡市で予定されていた全国アマモサミットのプログラムの一部としての実施が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、同サミットの開催は中止しました。



そのため、高校生サミットは2020年11月15日にオンラインで開催しました。サミットには、海辺の自然再生に取り組む全国12校の高等学校が参加。各校の代表高校生が日頃の研究や活動内容を発表し、NPO法人海辺つくり研究会の木村尚氏をはじめ3名の海洋環境専門家が活動へのアドバイスをを行いました。

※サミット参加校：

北海道函館水産高等学校／青森県立青森工業高等学校／宮城県水産高等学校／  
神奈川県立海洋科学高等学校／福井県立若狭高等学校／三重高等学校／関西大学北陽高等学校／  
兵庫県立西宮今津高等学校／岡山学芸館高等学校／福岡県立伝習館高等学校／福岡県工業大学附属城東高等学校／熊本県立芦北高等学校

※〔海辺の自然再生・高校生サミット 実施体制〕

〔主催〕 特定非営利活動法人海辺つくり研究会、特定非営利活動法人共存の森ネットワーク

〔協賛〕 一般財団法人セブン-イレブン記念財団、マルハニチロ株式会社

〔助成〕 公益財団法人日本財団



## ② ハンセン病回復者の聞き書き

公益財団法人笹川保健財団より「第20回ハンセン病問題に関するシンポジウム（人権フォーラム2021）高校生による聞き書きプログラム」を受託し、国立ハンセン病資料館と協働で事業を実施しました。

「聞き書き」を実施するにあたり、2021年1月9日と16日にオンラインで研修を実施。研修には、筑波大学附属坂戸高校、東京都立国際高等学校、盈進中学高等学校の3校27名の中高生が参加し、以下、5名のハンセン病回復者の方に聞き書きを行いました。

3月27日には「第20回ハンセン病問題に関するシンポジウム～人権フォーラム2021～」をオンラインで開催し、その成果を発表。フォーラムでは、人権バンド「願児我楽夢」（がんじがらめ）の演奏を事前収録し、あわせて紹介しました。

次年度は、引き続き、聞き書き作品のまとめをサポートする予定です。

〔聞き書きに協力いただいた方々〕

佐藤勝（松丘保養園入所者自治会会長）

柴田すい子（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会副会長）

豎山勲（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長）

中尾伸治（長島愛生園入所者自治会会長）

森和男（大島青松園自治会会長／全国ハンセン病療養所入所者協議会会長）

## 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

### ① 大分県国東半島・宇佐地域の「聞き書き」事業

国際連合食糧農業機関（FAO）は、グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を「世界農業遺産」に認定しています。日本国内では2014年に「クヌギ林とため池をつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」として国東半島・宇佐地域が認定されており、その翌年から、農林水産業等に従事する地域の名人を地元の高校生が「聞き書き」する活動が開始しました。当団体はその運営を受託しています。

本年度の高校生の研修は、第1回を8月17日～20日にオンラインで実施。第2回は11月4日にオンライン、9日に対面で実施しました。

研修には8校29名が参加しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、うち1校5名は名人の取材を辞退。7校24名の生徒が8名の名人に聞き書きを行いました。当団体は、研修の企画・運営を行うとともに、高校生がまとめた聞き書き作品の添削指導を行いました。

### ② 真庭なりわい塾の実施

「真庭なりわい塾」は、岡山県真庭市中和地区を主なフィールドとし、これからの生き方・働き方、持続可能な社会のカタチを考える人材育成塾です。当団体は、岡山県真庭市交流定住推進課とともに運営事務局を担っています。

本年度は、真庭市北房地区をフィールドに、第5期を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、塾生の募集を中止しました。

代わりに「アフターコロナを生きる、未来のあなたへ～7つの視座から明日を生きるヒントを探る～」と題して、全7回のオンラインセミナーを開催し、延べ998人に参加いただきました。各回のテーマと講師は下記の通りです。

- ・第1回 9月19日 藤原辰史（農業史研究者）  
「パンデミックを生きる指針～歴史研究のアプローチ～」
- ・第2回 10月17日 辻信一（文化人類学者）  
「しあわせの経済～経済成長がなければ、私たちは豊かに生きられないのか～」
- ・第3回 11月21日 五箇公一（保全生態学者）  
「自然界の逆襲～コロナ・気候変動・生態系危機の原因は何か」
- ・第4回 12月19日 内山節（哲学者）  
「コロナ禍に改めて問う農山村の価値」
- ・第5回 1月16日 佐々木実（ジャーナリスト）×占部まり（医師）  
「共に生きるための経済～宇沢弘文の思想に学ぶ～」
- ・第6回 2月20日 山極寿一（霊長類学者）  
「オンラインは万能か～人間の五感と身体性～」
- ・第7回 3月20日 太田昇（真庭市長）×高谷絵里香（農業）×小林加奈（松屋館女将）  
「真庭なりわい塾が目指すもの～里山資本主義の明日へ～」

## 5. その他

### ① 事務局スタッフの勤務体制

新型コロナウイルス感染症の拡大により、複数の事業活動を中止ないし縮小することが決定したため、5月～8月までは、国の雇用調整助成金を活用し、事務局スタッフは交代で休業する体制をとりました。その後も、感染防止対策のためテレワークを推奨し、交代で入社する体制をと

ました。

## ② 広報活動

広報活動は、ホームページ、オフィシャルブログ、facebook、インスタグラム、twitter等を通して行いました。聞き書き甲子園のホームページでは、第18回聞き書き作品を紹介する「聞き書きの本棚」を更新するとともに、「列島ききがきノート」に聞き書き甲子園卒業生の体験談を掲載。Youtubeチャンネルでは、「第18回聞き書き甲子園フォーラム」をはじめ聞き書き甲子園の活動内容を紹介する動画等を公開しました。

2020年度決算報告<2020年5月1日~2021年4月30日>


1. 2020年度決算についての監査報告書

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの  
2020年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2021年 5月 31日

特定非営利活動法人  
共存の森ネットワーク


監事 中山 幹生 

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの  
2020年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2021年 6月 10日

特定非営利活動法人  
共存の森ネットワーク

監事 須河 紗也子 

## 2. 2020年度 活動計算書

令和 2年度 活動計算書			
令和 2年 5月 1日から令和 3年 4月30日まで			
特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク			
(単位:円)			
科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	347,000		
賛助会員受取会費	183,000	530,000	
2 受取助成金等			
受取助成金	9,236,742		
受取協賛金	1,200,000		
受取補助金	24,261,630	34,698,372	
3 事業収益			
青少年教育事業収益(注1)	69,306		
普及啓発事業収益(注2)	3,596,920		
森づくり事業収益(注3)	254,100		
地域づくり事業収益(注4)	971,720	4,892,046	
4 その他収益			
受取利息	426		
雑収益	2,245,000	2,245,426	
経常収益計			42,365,844
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	11,240,000		
法定福利費	1,899,927		
福利厚生費	20,000		
人件費計	13,159,927		
(2)その他経費			
広告宣伝費	365,552		
印刷費	1,614,602		
支払手数料	184,990		
制作費	9,368,593		
施設借上費	798,848		
講師料	1,994,419		
リース料	730,416		
原稿料	620,000		
車両借上費	171,930		
事務用品費	234,984		
消耗品費	38,652		
地代家賃	1,200,000		
保険料	94,511		
租税公課	3,600		
旅費交通費	2,998,522		
通信運搬費	1,571,797		
会議費	33,094		
新聞図書費	75,360		
委託費	3,366,040		
雑費	111,800		
その他経費計	25,577,710		
事業費計		38,737,637	

2 管理費			
(1)その他経費			
支払手数料	30,140		
施設借上費	1,000		
事務用品費	73,700		
消耗品費	5,489		
保険料	11,257		
租税公課	120,180		
旅費交通費	4,400		
通信運搬費	28,364		
委託費	193,600		
繰延資産償却	150,000		
その他経費計	618,130		
管理費計		618,130	
経常費用計			39,355,767
当期経常増減額			3,010,077
税引前当期正味財産増減額			3,010,077
当期正味財産増減額			3,010,077
前期繰越正味財産額			21,089,445
次期繰越正味財産額			24,099,522

3. 2020年度 計算書類の注記

令和2年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

1. 重要な会計方針  
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。  
 (1) 消費税等の会計処理  
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	青少年教育事業(注1)	普及啓発事業(注2)	森づくり事業(注3)	地域づくり事業(注4)	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>							
1. 受取会費					0	530,000	530,000
2. 受取助成金等	29,886,697	600,000	35,297	4,176,378	34,698,372		34,698,372
3. 事業収益	69,306	3,596,920	254,100	971,720	4,892,046		4,892,046
4. その他収益	2,230,000				2,230,000	15,426	2,245,426
経常収益計	32,186,003	4,196,920	289,397	5,148,098	41,820,418	545,426	42,365,844
<b>II 経常費用</b>							
(1) 人件費							
給料手当	10,210,000	510,000		520,000	11,240,000		11,240,000
法定福利費	1,732,151	83,888		83,888	1,899,927		1,899,927
福利厚生費	20,000				20,000		20,000
人件費計	11,962,151	593,888	0	603,888	13,159,927	0	13,159,927
(2) その他経費							
広告宣伝費	292,156	28,000		45,396	365,552		365,552
印刷費	1,611,726	2,876			1,614,602		1,614,602
支払手数料	168,270	16,720			184,990	30,140	215,130
制作費	9,186,067		33,411	149,115	9,368,593		9,368,593
施設借上費	573,188			225,660	798,848	1,000	799,848
講師料	565,482	55,685	254,100	1,119,152	1,994,419		1,994,419
リース料	730,416				730,416		730,416
原稿料	590,000			30,000	620,000		620,000
車両借上費	66,194			105,736	171,930		171,930
事務用品費	224,926			10,058	234,984	73,700	308,684
消耗品費	28,024			10,628	38,652	5,489	44,141
地代家賃	1,200,000				1,200,000		1,200,000
保険料	94,511				94,511	11,257	105,768
租税公課	1,200	2,000		400	3,600	120,180	123,780
旅費交通費	1,976,520	111,290		910,712	2,998,522	4,400	3,002,922
通信運搬費	475,672	697,401	1,886	396,838	1,571,797	28,364	1,600,161
会議費	3,816	4,457		24,821	33,094		33,094
新聞図書費	1,980	73,380			75,360		75,360
委託費	2,141,040	165,000		1,060,000	3,366,040	193,600	3,559,640
雑費	74,000	28,080		9,720	111,800		111,800
繰延資産償却					0	150,000	150,000
その他経費計	20,005,188	1,184,889	289,397	4,098,236	25,577,710	618,130	26,195,840
経常費用計	31,967,339	1,778,777	289,397	4,702,124	38,737,637	618,130	39,355,767
当期経常増減額	218,664	2,418,143	0	445,974	3,082,781	-72,704	3,010,077

3. 事業正式名称  
 (注1)人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業  
 (注2)「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業  
 (注3)「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業  
 (注4)「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

4. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人等との取引
(活動計算書)			
給与手当(事業費)	11,240,000	5,760,000	
活動計算書計	11,240,000	5,760,000	

## 4. 2020年度 貸借対照表

## 令和2年度 貸借対照表

令和3年4月30日現在

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	52,273,153		
未収入金	85,252		
前払費用	330,180		
流動資産合計		52,688,585	
2 固定資産			
投資その他の資産			
敷金	600,000		
固定資産合計		600,000	
3 繰延資産			
更新料	262,500		
繰延資産合計		262,500	
資産合計			53,551,085
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	2,890,601		
前受金	26,315,549		
預り金	245,413		
流動負債合計		29,451,563	
負債合計			29,451,563
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		21,089,445	
当期正味財産増減額		3,010,077	
正味財産合計			24,099,522
負債及び正味財産合計			53,551,085



事務局

吉野 奈保子（事務局長）

三木 夏苗

峯川 大

大谷 めい

特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-11-26 コスモリヴェール松原 301 号

TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: [mori@kyouzon.org](mailto:mori@kyouzon.org)

<http://www.kyouzon.org/>